

## 与野南小だより

8・9月号

令和5年8月29日発行 第5号



さいたま市立与野南小学校

【児童数】計334名

電話 831-0157



学校ホームページ

討論番組から考えたこと ～主体的対話的で深い学びとは～

校長 土屋 智樹

長かった夏休みも終わり、子ども達の元気な声が学校に戻ってきました。本日からいよいよ2学期がスタートしました。コロナ感染症5類移行後の初めての夏休みを、各家庭でどのようにお過ごしになられたのでしょうか。きっと、夏休みにしかできない経験をたくさんしたり、ゆっくりと過ごして体も心も休めたり、一人ひとりが思い思いの夏休みを過ごし、心身ともにリフレッシュしたことでしょう。子どもたちには、自分なりの目標をたて、目標に向かって努力し続けることができる、そんな2学期にしてほしいと願っております。

さて、毎年8月は戦争に関連する番組がテレビで多く放送されますが、15日の終戦記念日に、私はNHKスペシャル「Z世代と戦争」を視聴しました。太平洋戦争の終結から78年がたち、戦争を直接経験していない日本人が大多数となりました。Z世代と呼ばれる若者たちは、戦争についてどのように考えているのか、全国の若者と専門家とで、過去や現代の戦争について議論を交わし、平和についてともに考えるといった内容でした。番組では、NHKのディレクターでウクライナ出身の方も議論に参加し、取材したウクライナの友人の声を紹介しながら、ウクライナ戦争の現状や自身の思いを語るとともに、「もし戦争の当事者になったらどうするのか」と若者たちに問いかけていました。ディレクターの問いかけは、若者たちの心を大きく揺さぶりました。誰もが「戦争は絶対してはいけないこと」を理解しています。それでも、愛する家族や友人を失い傷ついたウクライナの人々の生の声を聴き、「戦争に反対する」といった若者たちも「自分たちが本当に戦争に巻き込まれたらどうするか」と自分ごととして考えていきます。積極的に自分の考えを述べて互いに多様な考えを出し合いながらも、全員が納得するような結論は出ませんでした。しかし、この議論を通して若者たちは、「平和を守るために今できることは友達と戦争について話をする」「戦争を自分ごととして考えること」が大切なのではないかとということに気付いていったように思えました。私は、一人ひとりがじっくりとその問いに向き合いながら自分ごととして考え、他者と議論をしながら、自分の考えを深めていく若者たちのその姿から、これこそが主体的対話的で深い学びのあるべき姿ではないかと考えました。

現代社会は、今まさに「予測困難な時代」を迎えています。そこには、絶対的正解のない問いが次々と私たちに投げかけられます。唯一の正解がない問いに対して、仲間と対話を重ね、協働しながら、最適な答えを導く力が今求められています。この度の討論番組のように、これからの未来を生きる南っ子には、「自分に引き付けて学ぶことのできる力」「他者と協働しながら学ぶ力」を育てていってほしいと思います。そのために、その子ならではの学び方を大切にする個別最適な学びと、個々の学びを協働的な学びの場で深化させていく学習の在り方について、教職員と議論を進めながら、主体的対話的で深い学びを推進していきたいと考えております。



タブレットで表現した考えを共有し合う様子です。